

ワンストップのセキュリティと経営課題解決を支援する フィジカルセキュリティ統合プラットフォーム

日立グループは、各種フィジカルセキュリティシステムのデータとIoT^{※1}のデータを一元的に収集・蓄積・分析できるフィジカルセキュリティ統合プラットフォームを開発しました。利便性・機能性・拡張性に優れたこの基盤上で、大規模・広域監視によるフィジカルセキュリティの強化に加え、お客さまに新たな価値を提供するソリューションの活用により、さまざまな経営課題を解決していきます。

※1 Internet of Things

適切なソリューションを 迅速に提供するための基盤

情報のさらなるグローバル化を背景に、安全・安心の確保に対する社会的ニーズが増大しています。事業継続のリスクとなる脅威も、内部不正などによる情報漏えいにとどまらず、社会インフラや公共施設を狙ったテロ/サイバー攻撃、パンデミックなどへと拡大しており、大規模・広域化する拠点^{ふかん}をフィジカルとサイバーの両面から俯瞰するトータルかつ高度なセキュリティ対策が不可欠なものとなりつつあります。

しかし、これまで監視カメラや入退室管理、車両入退場などのセキュリティシステムは、それぞれ独立した運用とデータ管理が行われていたため、監視データの共有が進まず、対応の分散やオペレーションコストの多重化などの課題が生じていました。

一方、近年のIoT化の進展で、各種センサーデータを収集・分析して業務改善や経営課題の解決を行うデジタルトランスフォーメーションの実現に向け、フィジカルセキュリティシステムやIoTのデータをビッグデータとして活用したいというニーズも高まっています。

そこで日立グループは、お客さまに適したソリューションを迅速に提供するため、これらフィジカルセキュリティシステムのデータと

IoTのセンサーデータなどを一元的に収集・蓄積・分析するフィジカルセキュリティ統合プラットフォームを開発しました(図1)。

セキュリティと業務改善を 両立するプラットフォーム

フィジカルセキュリティ統合プラットフォームは、監視カメラや入退室管理、各種センサーを組み合わせたセキュリティシステム(VMS/Sensor^{※2}機能)や、お客さまの用途に合わせたVCA^{※3}(映像解析)機能、PSIM^{※4}(事故管理)機能、情報をわかりやすく表示するGUI機能などを、必要に応じてプラグインすることが可能です。

IoTの各種センサーデータの収集・蓄積にも対応しており、フィジカルセキュリティデータとあわせて、日立が得意と

する映像解析技術やAI^{※5}/アナリティクスソフトウェアにより、ヒト(従業員、来訪者など)やモノ(設備、在庫、業務環境など)の動線・動作・状況をトータルに可視化し、分析することができます(図2)。

これにより、空港や駅、公共施設、工場などで大規模・広域化している監視システムの統合管理や、脅威(なりすまし、共連れ、人物発見・追跡など)への迅速な対応も可能となり、適切な人員とコストでフィジカルセキュリティの強化を実現することができます。同時に、現場データを活用したKPI^{※6}改善により、生産性や品質、サービスの向上といった経営課題の解決につなげることも可能です。

※2 Video Management System/Sensor

※3 Video Contents Analysis

※4 Physical Security Information Management

※5 Artificial Intelligence

※6 Key Performance Indicator

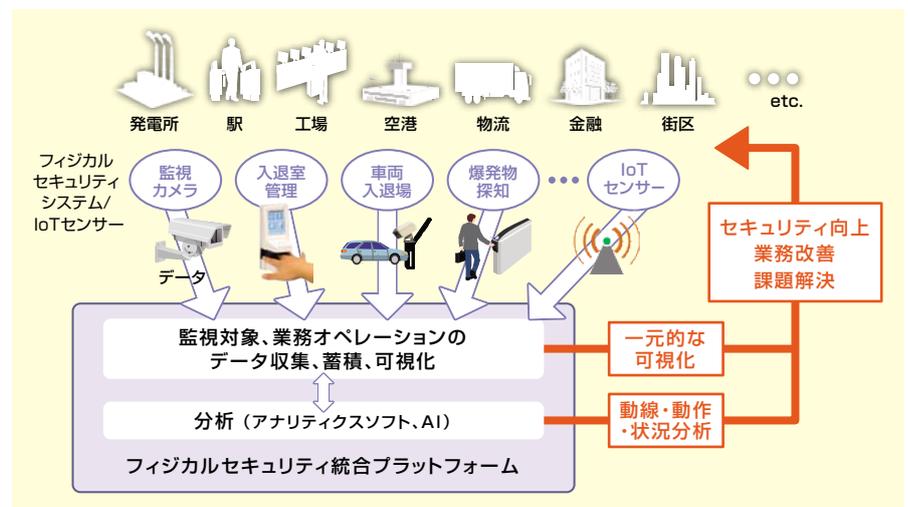


図1 フィジカルセキュリティ統合プラットフォームの概要

■フィジカルセキュリティ統合プラットフォーム 三つの特長

●利便性

プラグインモジュールはインタフェースが共通仕様のため、PoC^{*7}(概念実証)や開発期間が短期間で済みます。また共通部分の標準化で開発コストも最適化できます。

※7 Proof of Concept

●機能性

日立独自の高度な映像監視・分析機能を提供し、セキュリティの高度化と省力化を実現します。オンプレミスのほかクラウドでの利用も可能なため、多拠点の監視・導入が容易です。

●拡張性

必要機能からのスモールスタートで、段階的な拡張が容易です。モジュールの

入れ替えにより最新機能が導入できるほか、日立以外のベンダーの機器やシステム機能の取り込みも可能です。

日立グループでは、IoTプラットフォーム「Lumada^{ルマダー}」と連携しながら、フィジカル

セキュリティ統合プラットフォームを活用したソリューションを順次開発し、電力、交通、製造、空港、物流、金融、自治体・街区など幅広い分野のお客さまに付加価値の高いソリューションを提供していきます。

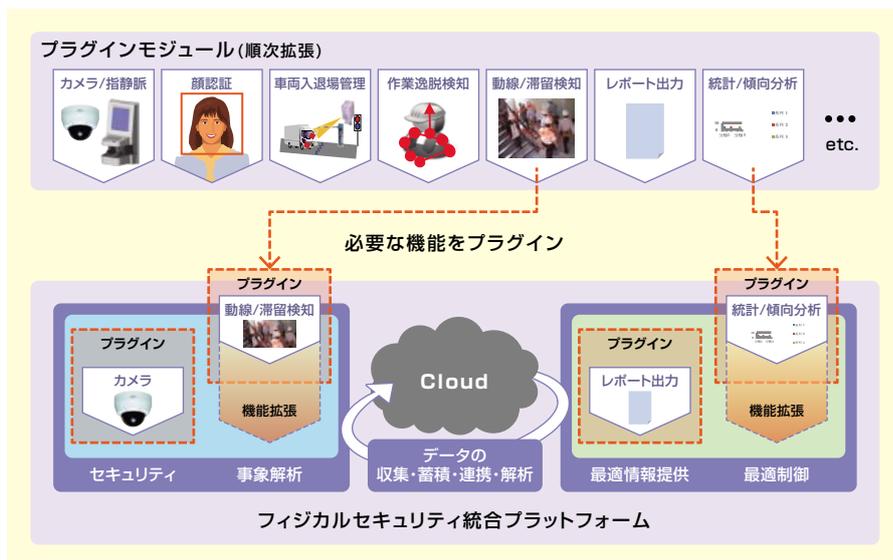
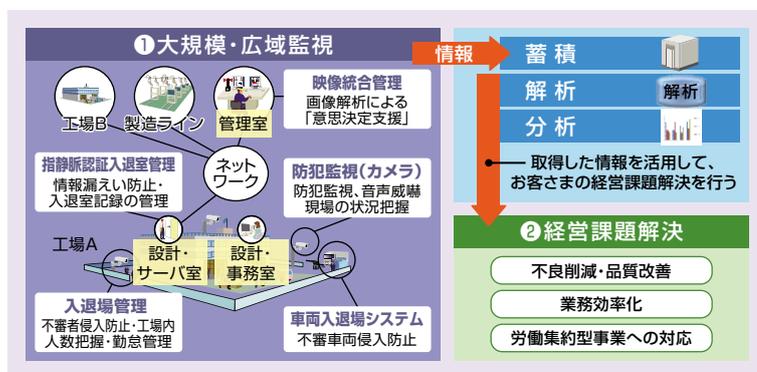


図2 フィジカルセキュリティ統合プラットフォームの「プラグイン方式」

■ 製造業への導入例

指静脈認証入退室管理、カメラによる防犯監視など、複数のセキュリティシステムをフィジカルセキュリティ統合プラットフォーム上で連携します。これにより、重要エリアへの共連れや不審者・不審物の発見、危険行為などを遠隔の管理室(監視センター)からリアルタイムに自動監視できるようになり、事件や事故などの未然防止に貢献します。

また工場内のライン設備にも監視カメラやセンサー機器を導入し、フィジカルセキュリティ統合プラットフォームで統合的なデータ収集・解析を行います。現場作業員の逸脱動作検知に加え、将来的には設備不具合の予兆も高精度に自動検出できるようになり、品質改善や業務効率の向上などにつながります。



工場への適用例

お問い合わせ先

(株)日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 セキュリティ事業統括本部
<http://www.hitachi.co.jp/secureplaza-inq/>

■ 情報提供サイト
<http://www.hitachi.co.jp/Secureplaza/>